

総合教育センターだより

122号 平成30年3月発行

山梨県総合教育センター

「初任者研修閉講式での講義から」

所長 小川 巖

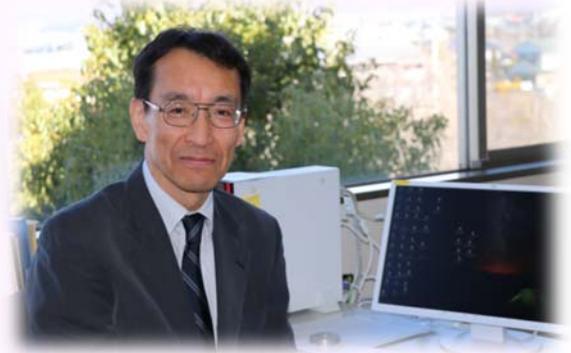
本年度の初任者研修も、校内研修240時間、校外研修25日間のすべてのプログラムを終了し、1月に無事、最終日を迎えました。この1年、センターで彼らに出会うたびに研修参加への意気込みと熱意を常に感じ取ることができ、その目の輝きの中に教師として日々育っていく頼もしさが表れていました。

さて、4月の開講式で初任者の先生方に3つの課題を出し、閉講式の講義の中でその取り組みや考え方について代表14名に発表してもらいました。課題の概要は、①子供たちの内なる可能性を引き出したか、②自分自身を熱く語ったか、③なぜ教員は研究・研修に努めるのか、の3点でした。これらについて自分の言葉で堂々と語ってくれた姿を見て、ここからが本当のスタートとなる教職人生への決意と覚悟を感じることができました。

また、先生方の多くが1年を振り返って感じたことは、「教育は人なり」ということではなかったでしょうか。どんなに時代が進み、AI技術が発達しても、子供を豊かに育て、内なる能力を引き出すのは、最後は教師という人間であること、子供たちにとって最大で最高の教育環境は教師自身であることを現場経験を通して強く感じているようでした。

その一方で、いじめ、暴力行為、不登校などの県内の現状を伝える中で、どの子供たちも発展途上にあるということ、もっとよくなりたいという願いを持っていることを信じて、彼らの未来にかける思いで取り組んでほしいと伝えました。「子供が良くなるのも悪くなるのも教師次第」、「すべてを子供のせいにはいけない」、「そりの合わない子供には倍の声掛けをし、いつでも関心を持っていることを知らせる」、「無関心を装っていても、それでも最後は教師に期待している」ということを常に心において、指導に当たってほしいと願っています。

211名の初任者を前にして、彼らから「現状に満足することなく、学び続ける姿勢を持って、理想の教師像に向かって努力していく」、「目先の成果にとらわれず、目の前にいる子供たちと向き合い、子供の大きな成長のために頑張りたい」といった謙虚で前向きな思いを強く感じた1時間でした。初任者の今後の活躍に心から期待したいと思います。本年度の総合教育センターは、『平成30年度新生総合教育センター』としてスタートするための準備の1年でもありました。この間、センター機能のさらなる充実と強化を軸に、「やまなし教員等育成指標」に基づいた研修体系と研修計画の策定、山梨大学との研修連携、センター内部の組織改革など、新たな方向に向かって取り組みを進めてまいりました。今後も学校現場への支援充実に努めてまいりますので、多くの方々に本センターを教育課題解決のための「知の拠点」として活用していただけますよう、よろしくお祈りします。



平成30年度 研修会申込手續について

平成30年度「研修会申込事務説明会」を次の日程で開催いたします。各校の申込事務担当者の先生1名は、必ず御参加くださいますようお願いいたします。このことについては、文書をメールで発送(3月9日付)しましたので御確認ください。

●日時 4月12日(木) 13:40~16:40

(受付13:20~)

●場所 山梨県総合教育センター大研修室

《研修会申込手續に関する主な日程》

3月 9日(金) 各校へ「研修会申込事務説明会の開催通知」の発送

4月12日(木) 研修会申込事務説明会

4月18日(水) 早期実施研修会申込締切

5月10日(木) 第一次受講申込締切

(7月20日までの研修会)

6月20日(水) 第二次受講申込締切

(7月23日以降の研修会)

研修関係

学び続ける教員

1月26日(金)、初任者研修最終日、受講者及び講師の先生方から繰り返し述べられた言葉が「学び続ける」でした。

初任者の先生方は、1年間職場やセンター等で学んだことを、目の前の子供たちへとつなげていきました。力不足を認識し、今後も学び続け、子供たちへそして先生方に返していこうと決意を新たにしていました。

では、5年目の先生、10年目の先生、ベテランと言われる先生方はどうでしょうか。

子供たちの成長を担う教員は、如何に時代が変化しようとも、その時代の背景や要請を踏まえ、子供たちの将来の道しるべとなるように、常に成長し続けることが求められています。「学び続ける教員像」は、そのまま子供たちの模範になり、教員が前向きに挑戦を続けていくことこそが何よりの教育になります。その教員の生き様、人間性そのものが子供たちに直接影響を与えます。

昨年11月に「やまなし教員等育成指標」が策定されました。校長及び教員の資質の向上に関する指標が定められ、「教員研修計画」も作成されました。

本センターでも来年度に向け、研修体形や研修内容の見直しをしました。先生方のキャリアステージに応じた様々な研修会を運営して参ります。ぜひ高い志を持って、積極的に研修会に参加し、自分自身の資質の向上と、学校教育の充実のために活用していただきたいと思います。



研究関係

来年度の研究に向けて

センター研究においては、センターの基本方針を具体化するため、「教育研究」「学校支援」「教育情報収集・提供」の機能連携による、「知の拠点」としてのシンクタンク機能の更なる充実を目指していきます。学校の現状に即した今日的教育課題を把握し、学校教育を支援することを目的とした実践的な研究を行い、研究成果や適時な教育情報の普及・広報を行うとともに、学校や教職員に対し相談・支援等を行っていきます。



<センター研究の推進>

来年度の研究については、スタイルを変更し、「授業・学校づくり」「情報教育」「教育相談」「特別支援教育」の4領域でグループ研究に取り組む予定です。

具体的には、「授業・学校づくり」「情報教育」研究では、研究支援協力校（小学校2校、中学校1校、高校1校、ICT活用校1校）を公募し、学校毎の担当指導主事を中心にチームを組み研究支援を、「教育相談」「特別支援教育」では、従来同様に研究協力校において研究を推進します。各研究とも研究支援協力校・研究協力校において、複数年度（2～3年）の研究を行う予定です。

なお、来年度の研究大会は、平成31年2月21日（木）に開催する予定です。特に来年度はセンター創立70周年を記念する大会として記念行事を含めた開催となりますので、多くの先生方の参加をお待ちしております。

<一般留学生研究の推進>

来年度は、2名の一般留学生が学校現場（小学校1名、中学校1名）より派遣されることが内定しています。センター指導主事及び学校現場の研究協力員の支援体制の下で「英語科における新学習指導要領に対応した目標と指導と評価の一体化に関する研究」「情報教育の充実及びICTの活用に関する研究」についての研究を行うこととなっています。なお、平成31年度の一般留学生については、8月中旬から9月にかけて募集を行う予定です。多くの先生方の応募をお待ちしております。

<教育情報の収集・調査の実施>

教育図書や雑誌の購入、教育関係機関や県内各学校の研究紀要等の収集に当たります。また、校内研究主題等調査や教育課題調査を実施する予定です。

<学校教育の支援・相談・情報提供>

「校内研究の進め方研修会」の開催や校内研究に関する相談業務を通して、各学校の校内研究の活性化・充実に向けた支援を行っています。年2回の「特別研修会」では、全国で御活躍の講師を招聘した講演を計画しています。6月26日（火）の特別研修会Ⅰでは、新学習指導要領がめざす学校や授業について横浜国立大学名誉教授の高木展郎先生に御講演をしていただく予定となっています。

情報教育関係

☆ やまなしeラーニング(YeL)をより身近なものに！

研修の効率化と充実、受講の利便性を図ることを目的に、今年度より「やまなしeラーニング（YeL）」を本格運用しました。これは、研修の一部をWeb化することにより「いつでも」「どこでも」「何度でも」視聴できるという利点を生かし、本センターで実施する研修内容の理解促進や演習時間の拡大、さらには先生方の自主研修や校内研修などに役立てていただきたいとの願いからスタートしたものです。

「やまなしeラーニング（YeL）」に関するアンケート結果を見ますと、eラーニングの導入や内容に関しては、受講者の約95%から肯定的な評価をいただきました。その一方で、視聴までのIDやパスワード入力の煩雑さ、視聴時間の長さ、研修内容との関連性などに関するご要望もいただきました。

こうした課題の解決を図りながら、先生方の身近なコンテンツになるよう、今後もより充実したYeLの構築に取り組んでいきますので、一層のご理解とご協力をお願いします。



☆ 学校教育の情報化を目指して！

情報教育研修会は、ICTを効果的に活用した主体的・対話的で深い学びの実現や情報活用指導力の向上を目的としており、来年度も20の講座を予定しています。

また、校内研修や地区研究会において、「ICTの具体的な活用方法やプログラミング教育、情報モラル、情報セキュリティなどについて仲間と一緒に勉強したい」という場合は、是非とも学校訪問をご利用ください。今年度は16の学校や地区を訪問させていただきました。もちろん先生方のみならず、児童生徒や保護者を対象とした研修会でも構いません。

さらに、指導法に関する情報提供、ICT機器やソフトウェア、ネットワークに関する相談支援も行っていますので、“ちょっとした疑問”がありましたら、お気軽にご相談ください。

相談支援関係



～児童生徒への支援や対応を応援します！～

私たちは、様々な課題を抱える幼児児童生徒の健やかな成長を願い、本人、保護者、学校と先生方を支援しています。



【教育相談】

いじめや不登校等の予防や解決を目指し、児童生徒、保護者及び先生方を対象とした面接相談や電話相談（365日24時間体制で電話相談員が対応）、学校に出向いて学習会やケースに関する相談を実施しています。また、いじめや不登校等の予防や解決に生かせる研修・研究を行い学校に還元しています。

【特別支援教育】

障害があったり、発達に課題があったりする幼児児童生徒の教育の充実を目指し、本人、保護者及び先生方などを対象とした面接相談や電話相談、学校に出向いて学習会やケースに関する相談を実施しています。また、特別支援教育の現場に役立つ実践的な研修・研究を行い学校に還元しています。

【適応指導教室（石和・葦崎・都留こすもす教室）】

県内3教室において、不登校児童生徒の心の居場所づくりを第一に考え、人間味のある温かい教室運営を基本に、自立に向けた適応指導や学習指導を行っています。また、保護者や教職員からの相談にも応じています。



「やまなし 学びの未来の創造」を目指して

研究開発部長 森澤 和仁

2018年2月22日(木)、「センター研究大会 実践交流ラウンドテーブル2018」が開催され、260余名の県内の教職員・教育関係者に御参加いただき、無事終了いたしました。御協力いただいた皆様、誠にありがとうございました。



学校現場の多忙化改善を考慮した午後開催の日程の中で、「特別講演」「ポスター発表」「ラウンドテーブル」と内容密度が濃い大会となりました。

特別講演では、東京大学大学院教育学研究科教育心理学コース教授 市川 伸一 先生に「習得における『主体的・対話的で深い学び』とは一教授と活動のバランスに配慮した授業づくり」というテーマで御講演いただきました。

教師からの説明・理解確認・理解深化・自己評価の4つの段階を踏まえて授業を構成し、教授と活動のバランスを配慮した「教えて考えさせる授業」の導入による児童生徒と教員の変容や実際の授業づくりのポイントなど、グループワークを交えて具体的な説明により、学校現場での実践に多くの示唆をいただくことができた講演となりました。

今年度は、センター指導主事による研究(2ブロック7領域19課題)・適応指導教室(こすもす教室)の実践・一般留学生の研究(1領域1課題)の21本の研究成果・事例をポスター発表で行いました。研究内容及び発表では、「今日的教育課題や学校現場の課題に対応した研究」「学校現場の活用につながる実践的な研究」「簡潔でわかりやすい発表」を心掛けました。

昨年度から新設したラウンドテーブルでは、160余名の参加者が各校種織り交ぜ、3会場35グループに分かれ、センター指導主事や山梨大学との連携・教育研究会の連携アドバイザーである山梨大学の先生方がファシリテーターとなり、特別講演の内容や新学習指導要領などを討議の足掛かりに、テーマである「やまなし 学びの未来」を意見交換の方向性として、参加者が自由に意見交換を行い、全員が同じ立場と目線で教育実践等を交流することができました。

参加者の皆様から、「実践や研究(校内)にすぐにも生かせる講演内容だった」「研究成果発表の工夫、実践(現場)で使える研究への配慮があった」「校種を越えたラウンドテーブルは、山梨県の教育課題を再認識する機会となった」など有意義な研究大会であったとの多くの感想をいただいた今回の大会ですが、来年度につながる貴重な御意見もいただいておりますので、それらを来年度の研究や大会運営に活かしていきたいと思っております。今後とも、「教育研究」「学校支援」「教育情報収集・提供」の機能連携による「知の拠点」としてのシンクタンク機能の更なる充実を目指していきたいと思っております。



教員としての資質向上を目指して

平成29年度一般留学生 高波祐次

「授業がもっと上手くなりたい。」

そんな思いを抱えて、総合教育センター一般留学生としての研修がスタートして一年が過ぎようとしています。「国語科における言語活動の充実」をテーマに、学習指導要領や文献を読み、先行研究に学び、実践を行う中で、理想とする授業の姿が少しずつ具体的になっていきました。「子供に身に付けさせたい力を明確にした授業」「単元に言語活動が位置付けられている授業」「『主体的・対話的で深い学び』の視点からの工夫がなされた授業」「目標、指導、評価が一体化されている授業」等、自分が目指す授業、研究が少しずつ明確になっていくことにやりがいや楽しさを感じることができました。

また、この一年間で国語科の授業づくりに関する研究以外にも、理科や算数の授業づくり、外国語教育、ICT教育、学級経営、教育相談等について、センターの指導主事の先生方や県内の教育機関の先生方から学ぶ機会がありました。専門的な知識や実践を持った先生から直接お話を聞けたり、分からないことを質問できたりと、とても有意義で贅沢な時間だったように思います。そして、様々な分野の教育理論や教育実践を学ぶことで、教員としての視野を広げることができたのではないかと考えています。

「学ぶことって楽しい」そう思える一般留学生としての研修でした。主体的・対話的で深い学び、言語活動、道徳や外国語の教科化等、学べば学ぶほど「知りたい」「追究してみたい」という思いは強くなっていきます。一般留学生としての研修は三月で終わってしまいましたが、研修で学んだことを基盤にし、教員としての学びはこれからもずっと続けていきたいと思います。そしてこの一年間で学んだことは、自身の日々の実践、所属校や地域の教育研究会における発表等を通じて、学校現場に広く還元できるよう努めていきます。本当にありがとうございました。



編集発行 山梨県総合教育センター
山梨県笛吹市御坂町成田1456
電話 055-262-5571
Fax 055-262-5572
発行責任者 所長 小川 巖
発行日 平成30年3月16日